

2025年4月13日(15週目)主日礼拝

「命をかけたパウロと命をかけた弟子とレムナント」(使徒 14:19-26)

- ・今週は受難週である。受難週にふさわしく、命をかけた弟子となることが出来るように。
- ・シンディ・ジェイコブスが、①北朝鮮、②中国、③日本に対しての預言をした。しかし、神様の目的は全世界に福音が伝えられるようにすることである。
- ・日本に伝道運動が起こらなければいけない。福音宣教教会のレムナントが、30年以内に日本がキリスト教国家となり災いは終わると預言した。日本がキリスト教国家となると災いは終わる。命をかけた伝道をする時に、日本はキリスト教国家となり災いが終わるようになる。
- 使徒 14:1-7-パウロチームがピシテヤのアンテオケからイコニオムで宣教をするようになった。
- 使徒 14:8-18-パウロは迫害にあった為、ルステラに行って宣教をするようになった。
- ・ルステラの異邦人はギリシャ・ローマ宗教を信じていた。その中で、パウロは足のきかない人を癒した。その中で、イコニオム、ピシテヤのアンテオケから人が来てパウロを石うちにした。
- 使徒 14:19-26-パウロは死んだものと思われたが立ち上がり再び町の中に入った。パウロは命をかける価値があるのを分かったので、殺されそうになってもまた町の中に入った。

1.命をかけたパウロ

- ▲パウロは福音を伝えようとする人を殺そうとする人であったが、しかし人間の問題は創世記3章の問題であることを分かり、キリストの必要性を分かり命をかけた。
- 1)創 3:15 (わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。)
- ・創世記3:15の契約の重要性を分かる必要がある。
  - ・悪魔によって精神病となり問題が起こる(ススキノ男性殺害事件, 広末涼子容疑者)。
  - ・キリストが私達の為に命をかけて死んで下さったことを分かるので命をかける。
- ローマ 3:25 (神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。)
- ・キリストがなだめの供え物は罪を赦して、私達を神様と和解させて下さった。
  - ・ソン・ニャオン牧師は自分の息子を殺した人を養子にした。
  - ・キリストを味わってこそ和解をすることが出来る。
- 2)使 1:8 (聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。)
- ・キリストが、私達を地の果てまで証人として下さる。
  - ・神様は約束を成就出来るように働いて下さる。
- 3)マタイ 24:14 (この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。)
- ・様々な問題が起こるのも、キリストを信じるようにさせる為である。
  - ・キリストが全世界に伝えられてから再臨をする。
- 4)使 14:19-20 (アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町に入って行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。)
- ・ピシテヤのアンテオケとイコニオムの人が石でパウロを打った。
  - ・パウロは殺されかけたが、立ち上がり再び町の中に入った。
  - ・パウロのような命をかけれる弟子をたてる為に続けて伝道をしていった。
- 5)使 20:24(私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私の命は少しも惜しいとは思いません)
- ・パウロは命をかける覚悟を持って伝道現場に行った。

2.命をかけた弟子とレムナント

- ▲パウロは命をかける弟子をたてる為に何度も現場に入っていった。
- 1)使 14:22-23 (弟子達の心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、
- 「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならぬ」と言った。また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食をして祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた)
- ・弟子に信仰に留まるように勧めた。
  - ・価値があることなので、多くの苦しみをうけても大丈夫である。
  - ・短い期間に命をかける弟子をたてて長老として任命をしていった。
  - ・私達も2-3年したら命をかける弟子となれるように。
  - ・日本は命をかけて伝道すれば必ず福音化をさせる。
- 2)使 16:1 (パウロはデルベに、次いでルステラに行った。そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ婦人の子で、ギリシヤ人を父としていたが、)
- ・ルステラに絶対弟子、レムナントがいた為、続けてルステラに入った。一テモテという弟子がいた為。
- 3)Ⅱテモテ 1:2 (愛する子テモテへ。父なる神および私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますように。)
- ・パウロはテモテを弟子としてたてた
  - ・弟子によりキリスト教国家となる。

3.礼拝と祈りと訓練

- ▲礼拝をする中で御言葉と祈りをきく。御言葉を聞く時に命をかけた弟子となる。
- 1)御言葉
- 使徒 2:42 (そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。)
- ・礼拝をするときに御言葉を聞く。
  - ・御言葉を聞き命をかけた伝道者となる
- 2)祈り
- 7,7,7 祈り
- ・777の祈りをするように。
  - ・祈りをするときに感謝出来る。
  - ・祈りで聖霊充滿を受ける。
  - ・悪魔は感謝すると逃げていく。
- 3)訓練
- 使徒 19:9-10 (毎日ツラノの講堂で論じた。これが二年の間続いたので、アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のこばを聞いた。)
- ・訓練の中に入るように。
  - ・日本神学校の講義を受けるように。
- 4)Camp
- ・伝道キャンプに参加を出来るように
  - ・日本が福音化をされると全世界が変わることが出来る。

## 現場地教会(2025年4月13日～2025年4月19日)

### 【賛美】「イエスわが王よ」

- 1) イエスわが王を賛美で迎えん 栄光の主の御座を もうけたまえ主よ  
私は神のもの ゆえに神にささげん 御心のままにおさめよ 主イエスよ
- 2) イエスわが王よ ここに来られ われが主にささぐ 賛美受けたまえ  
われは主のしもべ 主はわれらのきみ 主なるイエス来られ 賛美を受けたまえ

### 【使徒信条】

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死にたる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえの命を信ず。アーメン

【メッセージ】 「命をかけたパウロと命をかけた弟子とレムナント」(使徒 14:19-26)

【讚美】 389 みよや十字架の

### 【祈り】

- ① 教会の祈りの課題  
※御国イザヤ牧師に聖霊充滿と5つの力が与えられるように。
- ② 現場地教会の聖徒の中で欠席された方、問題、病にある方、新しい家族のために。
- ③ 現場地教会参加者の祈りの課題(集まった聖徒の祈り課題を付箋に記入)のため。

### 【フォーラム・祈り】

### 【主の祈り】

天にましますわれらの父よ。ねがわくは、御名をあがめさせたまえ。御国をきたらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなり。アーメン

## 祈り文

### (お知らせ)

- ① 旭川教会が設立されました。
- ② 来週はイースター主日です。洗礼を行います。

## 福音宣教教会

主管牧師：御国イザヤ

名古屋市中区栄5丁目23-8 / tel:052-238-6003

主日(日曜)1部礼拝 7:00 / 2部礼拝 10:00 / 3部礼拝 12:00